

園だより

平成27年4月9日・10日

佛教大学附属幼稚園

春の音 ベスト・テン

園長 藤堂俊英

幼稚園の前には豊かな田園風景が広がっています。時折、畑のあぜ道を歩くのですが、土の香り、小川のせせらぎ、心地よい風に乗って聞こえてくる小鳥のさえずりなど、ぜいたくな癒しのひと時を過ごすことができます。気象予報士の平沼洋司さんの『空の歳時記』（京都書院）というフォト・エッセイの中に、春の音のアンケート調査が紹介されています。それによれば全国から集まった三千余通のベスト・テンは、① 小川のせせらぎ ② 雪解けの音 ③ ウグイスの鳴き声 ④ 野鳥のさえずり ⑤ 春風の音 ⑥ 校庭・公園の子どもたちの声 ⑦ ひばりのさえずり ⑧ 入園・入学式ではしゃぐ子どもの声 ⑨ ネコの鳴き声 ⑩ 草野球の球音、となっています。またこの他にも、農村からは「田んぼの耕耘機の音」、北海道からは「流水が流れ出す音」、都会では「団地で聞こえる洗濯機の回る音」、山からは「雪崩の音」、西日本からは「ハチの羽音」、そして「若い女性の靴の音」というのもあったそうです。どれも「そうだなあ」と納得するものですが、子どもたちの声もまた春の音のベスト・テンに入っていることは、いつまでもそうあってほしいサウンド・スケープ（音の風景）です。河野進さんに「闇」という次のような詩があります。

こどもが 一人も ほほえまなくなったら
世界は たちまち 闇になる
人類は ちっそくする
一人のこどもを
悲しめますな 泣かすな

子どもたちの笑顔と声は、いつの世にも希望のともし火であり、私たちの憂いや悲しみ苦しみなどの暗闇を追放してくれる光です。

ところで今から87年ほど前に作曲された童謡に「春の小川」という尋常小学校唱歌があります。どこかフィンランドの国民的作曲家シベリウスの組曲『カレリア』のバラードの旋律を思い出させるところがあります。ご存知でしょうか歌詞は次のようなものです。

春の小川は さらさらいくよ
岸のすみれや れんげの花に
すがたやさしく 色うつくしく
咲けよ咲けよと ささやきながら

間もなく幼稚園の前の畑にはたんぽぽやれんげそうやすみれが咲きはじめます。私たちもまた保護者の皆さんと一緒に、春の小川のように子どもたちのそばを「ささやきながらの速度」を大切にしながら、一人一人のかわいい姿をこころの川面に映していきたいと思えます。